

パワープロドリームカップ
についてもかしこい
ので

いのかしら

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

「教えてやるのです。われわれはかしこいので」

「かしこいので」

目次

第1話	とうしゅちほー	1
第2話	すためんちほー	10
第3話	ひかえちほー	20
第4話	しあいまえちほー	26
第5話	しあいごちほー	32

第1話　とうしゅちほー

博士「どうも、アフリカオオコノハズクの博士です」

助手「どうも、助手のワシミミズクです」

博士「さて、こちらの方でもけものフレンズが参戦したパウプロドリームカップⅠⅠについて話していくのです。われわれはかしこいので」

助手「われわれはかしこいので」

博士「大会に関する紹介はあちらに任せて、われわれはメンバーの紹介を進めていくのです。そしてこれからも次のリーグの概要を向こうが、結果からの決勝トーナメントなどに関する話はこちらが受け持つのです」

助手「住み分けがだいじなのです」

博士「本当はわれわれだけでも充分なのですが、相方が気になるフレンズが多いので、少しばかり話しに加えていくのです。この島の長なので」

助手「われわれは心が広いので。加わるのはこのメンバーなのです」

プレーリー「おお、ビーバー殿がスタメンでありますか！では、応援に突撃でありまー

す！」

アミメキリン「先生！活躍に期待します！」

フルル「よろしく」

助手「……どれもおつむが微妙な面々なのです。解説なんかに使えるのですか？博士」ヒソヒソ

博士「逆なのです。かばんかばんと持ち上げられる中でこの面々をまとめ上げて、皆にわれわれがこの島の長であると思わせるのです」ヒソヒソ

助手「なるほど、さすがは博士なのです」ヒソヒソ

博士「それでは早速進めていくのです。今回で投手陣の紹介を終わらせるのですよ」

プレーリー「了解であります！」

フルル「この大会は、というよりこの大会で使われているゲームはとりあえず緩急あればいいんだよね」

助手「その通りですがメタい話しはやめるのです」

博士「それではジャガーマンの方で説明したように先発は2人いるので、その2人から紹介していくのです」

助手「球速、コントロール、スタミナ、変化球、特殊能力の順に書いていくのです」

先発1番手 サーバル

154ED

サバンナクロー（オリジナルストレート）、Hスライダー4、スラップ5

不屈の魂、ケガしにくさA、ノビB、回復B、驚異の切れ味、一発、四球、尻上がり、スロースターター

3DCACEF

走塁A、プルヒッター、内野安打○、初球○、チャンスメーカー、逆境○、お祭り男
強振多用、積極打法、積極盗塁、積極走塁、ムード○、体当たり、エラー

キリン「ヤギね！」

助手「違うのです。なかなかの速球と変化球が使える投手ですね」
プレーリー「打撃に關しても素晴らしいものがあります！」

博士「問題は肝心の投手能力なのです。コントロールE速球派スロスタ四球一発持ちとか燃える要素満載なのです。ある程度の失点は覚悟するのです」

助手「変化球も緩急つけられるものもなく、防御率が厳しくなるのは避けられません

ね、博士」

フルル「正直外野で使いたいよね〜」

先発2番手 コツメカワウソ

1 4 5 D C

ムービングファスト、シンカー4、フォーク3、カーブ1、カットボール1

クイックA、牽制○、リリース○、変化球中心

2 E D C D D B

博士「こっちの方が活躍しそうですね」

キリン「変化球がたくさんあるわね！そして決め球はシンカー……あなた、高津ね！」

助手「高津は抑えなのです。というか全然違うのです」

プレーリー「最初のフルル殿の話を伺う限り、信頼してもよろしいのでは？」

博士「悪くはないですが、軟投派とはいえ信頼はしきれないのです」

フルル「指使い上手いからもうちよいコントロール欲しいよね〜」

中継ぎ トキ

135EE

魅惑の大激震ボイス（オリジナルスライダー）7

打たれ強さA、ノビA、調子極端、驚異の切れ味、乱調

1FFCDEF

キリン「あなた、最も華麗な技の持ち主ね！」

助手「むしろ真逆なのです。というかそのトキじやないのです。このステータスはどう見るべきですかね……」

プレーリー「コントロールは低めでありますな。ですが変化球のキレはありますぞ。それで躲せるのでは？」

博士「でもレベル7変化球を持っていても抑えきれないことはよくあるのです。ニャル子の八坂親子とか。正直好調じやなきや使いたくないのです」

フルル「頼れないね」

中継ぎ オーロックス

162FD

シユート2、SFF3、Vスライダー3

ノビB、ジャイロボール、重い球、速球中心

4 F A C B F F

パワーヒッター、プルヒッター、初球○、強振多用、積極打法、体当たり

キリン「あなた、二刀流ね！」

助手「こればかりは本当にそう使いたいくらいのステータスなのです」

プレーリー「球速と球威はありますし、変化球も一通り揃っていますが、それでも厳しいのでありますか？」

博士「コントロールの低さはどうしても無視できないのです。多分燃えるのです」

フルル「リード時だからね」

中継ぎ タイリクオオカミ

1 4 8 E D

H シュート4、ドロップカーブ3

打たれ強さB、スロースターター、尻上がり、打球反応○

3 E C C D F E

チームプレイ×

キリン「先生！」

助手「緩急があるだけマシですが……」

プレーリー「コントロールの低さは変わらないのでありますな」

博士「ドロップカーブは結構使える変化球なので、それで耐えられるか、なのです」
フルル「思ったよりコントロール低いよね」

中継ぎ ラツキービースト

144BC

シュート4、パーム4、カーブ2

対ピンチG、対左打者F、回復B、調子安定、軽い球、スロースターター、乱調

1DEBCCD

内野安打○、慎重打法

キリン「ボスね！」

助手「基礎能力はいいのにそれに付随する特殊能力が悲惨すぎるのです」

プレーリー「確かに非常時にはうまく働きませんが」

博士「ピンチの場面だとカーブが使えなくなるのは痛いのです。が、パームは結構抑えられる球種なので、元のステータスも加味してそこまで怯えるほどではないのです」フルル「最後の活躍がもうちよい評価されてもいいよね〜」

抑え ツチノコ

140CE

ナツクル5、スクリユー4

逃げ球、短気

2ED A E C D

走塁A、慎重打法、積極走塁、選球眼

キリン「あなた、山崎ね！」

助手「山崎は右だからスクリユー投げないし、そもそもナツクルも滅多に投げないのです」

プレーリー「コントロールは良いみたいですし、緩急もナツクル併せて使えるようですな」

博士「逃げ球もありますし、特に不安視はしていません。ナツクルも変化量があれば使える球種なのでなおさらなのです」

助手「終盤打席に立つ可能性の高い抑えで、そこそこ打力があるのも評価できますね」
フルル「俊足だよね」

博士「まずはここまでなのです」

キリン「先生は大丈夫なのですか！」

助手「さつき微妙だと言ったばかりなのです。人の話を聞かないやつなのです」

プレーリー「ビーバー殿は次になるのでありますな！」

博士「その通りなのです。いまいちな投手が揃ってしまっている投手陣に比べまして、打線はそこそ期待していますよ」

助手「打線が支えないと厳しい戦いになりそうですからね」

フルル「ばいばい」

第2話 すためんちほー

博士「……助手、今回の当たり方、どう思うのです？」

助手「……もう一個隣のUグループに突っ込まれるよりはマシなのです」

フルル「でもかなりまずいよね」

プレーリー「そうなのでありますか？」

キリン「やはりここは名探偵アミメキリンの天才的分析が必要なようね」

助手「いらななのです」

博士「今回は一応入れられたTリーグについて話したのち、打線のスタメンを紹介していくのです」

プレーリー「おお、ビーバー殿の出番というわけでありますな！」

助手「それも込みなのです」

フルル「プリンセスが大事なところで試合壊さないかな」

博士「不吉なことを言うもんじゃないのです」

Tリーグ

1. パワプロくんポケット
2. こちら葛飾区亀有公園前派出所
3. クロスゲーム
4. けものフレンズ

博士「これがわれわれのチームが戦うTリーグなのです」

キリン「ここは……本職組ね！」

助手「こち亀も野球やってますし、あながち間違いではないのです」

フルル「場違いだよね」

プレリーリ「ここがそんなに厳しいのでありますか？」

博士「それでは各チーム、少し話しておくのです」

・パワプロくんポケット

博士「第一回大会から参加しているものの、ともに予選落ちを喫しているチームなのです」

プレリーリ「ならばそこまで警戒する必要はないのでは？」

助手「おそらくこの中では一番勝ちやすいチームではあるのです。しかし猪狩兄弟が追加されたことで投手陣、打線ともに底上げされているだけに、どこまで戦ってくるか予想つかないのです」

キリン「特徴がないのね！」

博士「まあ元はそうだったのです。ただ守備は悪くないですよ」
フルル「微妙に怖いよね〜」

・こちら葛飾区亀有公園前派出所

博士「大会最強クラスの打線を誇るのです。3番秋本から両津、ボルボ、ジヨデイ、麻里愛の並びはどこも恐れる長距離砲軍団なのです」

キリン「投手陣が隙ね！」

助手「両津のキャッチャーGに引つ張られるのでその通り……と言うわけでもないのです。擬宝珠と中川はなんとか抑えてくるのです。中継ぎを打てれば……といったところなのですが」

プレーリー「そもそもそれより前に打ち込まれることを覚悟、というわけでありますな」

博士「まだマシなカワウソで当たれるのが数少ない救いなのです」

フルル「中川の方が優秀だけどね〜」

・クロスゲーム

博士「先発2人の強さは格別なのです。そしてクリンアップも優秀ときているので
す」

プレーリー「代わりに中継ぎと打線のその他の選手は隙になりますな」

助手「勝つには中継ぎ以降を引つ張り出すのです。ある程度東や赤石に打たれるのは
覚悟するのです」

キリン「そこから逆襲ね！」

フルル「そこまでに追いかけてなきやいけないんだけどね〜」

博士「結論として結構厳しいリーグに入ったと言わざるを得ないので」

助手「とりあえず投手陣が打たれるのは確実なので、打線が頑張るしかないのです」
プレーリー「ということで打線の紹介というわけでありますな」

フルル「守備も不安なんだよね〜」

1番 右 ジャガー

3 D C B E F E (ショートF)

走塁B、プルヒッター、切り込み隊長、強振多用、積極打法、積極守備、チームプレイ〇

博士「ますやんか、なのです」

キリン「切り込み隊長ね！」

助手「そのままなのです。まあ実際強振多用にプルヒッター付いてますし、守備を除けば優秀なのです」

プレーター「足が速いのも充分魅力でありますな」

フルル「ここすきだよね」

2番 ニ アルパカ・スリ

2 E E D G F E

バント〇、ハイボールヒッター

博士「この肩がセカンドでまだ良かったのです」

プレーター「2番のバント〇、ということは繋ぎが基本でありますな」

助手「ハイボールヒッターを使って長打を狙う、というてもありますが、やはり基本はバントなど繋ぎになるのです」

キリン「川相ね！」

フルル「それはすでに先約がいるからね」

3番 中 プリンセス

2 C C D C C D

粘り打ち、積極打法、エラー、チームプレイ○、併殺

博士「併殺（ペパプのステージ完全停止）」

キリン「なかなか高レベル、ね？」

助手「そうなのです。中距離砲としても特に困ることがないのはありがたいのです」

「プレーター」「守備面でもありがたいのであります。特に長打が結果を左右しそうなパワケ戦でセンター堅守は救われそうですね」

フルル「勝手にやめないでね」

4番 一 ライオン

4 C S B F F C

イ○ パワーヒッター、プルヒッター、威圧感、強振多用、慎重打法、選球眼、チームプレ

博士「流石なのです」

キリン「清原……ではないわね！」

助手「流石にこの走力は違うのですが、打力に関してはそれくらいの怖さを与えられるのです。選球眼と慎重打法で球数稼いで、威圧感効果を使って欲しいのです」

プレリー「守備もファーストなので捕球あればあとは打力で目をつぶれますな」
フルル「守備あるべきじゃない」

5番 三 ヘラジカ

4 E A E E F E

チャンスF、プルヒッター、三振、逆境○、ハイボールヒッター、強振多用、積極打法、重戦車

博士「パワーだけ、なのです」

キリン「あなた、小久保ね！」

助手「もうちよい打率あつた気はするのです。が、チャンスの弱さは痛いのです」

プレーリー「ライオン殿が一掃してからが本領でありますな」
フルル「パワーライオンよりあるんじゃない」

6番 左 フェネック

2CECDDC（キヤツチャーE）

調子安定、流し打ち、ささやき戦術、ミート多用、慎重打法、選球眼、チームプレイ

○

博士「安定していいそうですね」

プレーリー「下位打線の繋がり の 起点としては優秀でありますな」

助手「守備に大きな不安もありませんしささやき戦術持ちなので、場合によっては捕手起用も考えられるのです」

キリン「外野にはイワビーさんね！」

フルル「上位に置いてもいいよね」

7番 捕 アメリカカビーバー

3ECDCF（ファーストF、外野F）

チャンスG、キャッチャーB、送球B、慎重打法

プレーリー「ビーバー殿、丸太を運んでいたこともあってパワー高めでありますな」

博士「このステータスを7番に置くのがけもフレの強みなのです。守備もそこそこ有能ですね」

キリン「精神弱いわね！」

助手「そうなのです。この打線の弱点の一つがチャンスに強い人材が控えな割に弱い人材が主力級なのです」

フルル「辛いよね〜」

8番投

9番遊 スナネコ

2FGBFF

調子極端、内野安打○、初球○、三振、サヨナラ男、高速チャージ、積極打法、積極盗塁、積極走塁、チームプレイ×

博士「足が速いのはありがたいのです。機動力は守備範囲を広げたり、先の塁を狙うのに役立つので」

キリン「それだけね！」

助手「……それ以外は現状信頼できないと言わざるを得ないので」

プレーリー「しかし似たステータスのSAOのアルゴ殿とかまどマギの早乙女殿、ダイ大のメルル殿も打っていらつしやいます。可能性はありますぞ」

フルル「試合中に飽きないで欲しいね」

博士「スタメンは以上なのです」

助手「控えも揃っているのです、楽しみにするですよ」

プレーリー「まだまだ先になるのでありますが、控えも紹介していくでありますよ！」

キリン「これからの結果には『サギね!』と言わざるを得ない!」

フルル「まだAリーグは予想の範疇じゃないかな」

第3話 ひかえちほー

博士「ひさびさなのです」

助手「ほんとうにひさびさなのです」

プレーリー「もう大会も完全に始まってBリーグが行われているでありますな」

アミメキリン「やる気ないわね！」

フルル「まあしばらく出番先だからね」

博士「それではこれまで紹介しきれていない、控え組の紹介をしていくのです」

助手「ここに使える人材がいる、というのもけもフレの強みなのですよ」

キリン「桧山ね！」

博士「……代打として使える人材もいるので間違いいはないのです」

プレーリー「この控えをどう活かしていくかも鍵でありますな」

助手「その通りなのです。早速見ていくですよ」

一塁手 アライグマ

3 E E C C F F (サード G)

怪我しにくさB、プルヒッター、粘り打ち、初球○、三振、逆境○、積極打法、積極走塁、エラー、併殺

キリン「ツライさんね！」

博士「新井さんならもつとパワーあるのです。特能でカバーしたいところなのですが、正直ライオンともヘラジカとも変える意味がないのです。守備的に見ても」

プレーター「優位なのはファーストとしての肩くらいでありますな」

助手「代打要員としても微妙なのです」

フルル「アライさん T w i t t e r で 増 え す ぎ だ よ ね ー」

外野手 イワビー

3 F C B D F E

固め打ち、初球○、三振、強振多用、積極打法、積極盗塁、積極走塁

博士「使える部類なのです」

キリン「甲斐ね！」

助手「肩と守備位置が見えてないのです」

プレーリー「機動力、肩はまともな部類でありますな」

博士「外野の誰かが絶不調ならば起用を考えてもいいのです」

フルル「能力69にいかないね」

一塁手 カバ

3 F B G E D A (キャッチャーE、サードF)

走塁F、チャンスメーカー、守備職人、ブロック○、積極守備、チームプレイ○

博士「長打力はあるカバなのです」

キリン「鈍足ね！」

助手「陸上だから早くスタメンでも構わなかったのです。キャッチャーDなのでキャッチャーとしては使えないのです」

プレーリー「代打でありますな」

フルル「アライさんより起用順位落ちそうなんだよね」

捕手 かばん

2 F G D E D B

チャンスB、キャッチャーA、走塁B、チャンスメーカー、意外性、ミート多用、身
長打法、選球眼、チームプレイ○

博士「かばんは控えなのです」

キリン「小林ね！」

助手「だから肩をよく見るのです。キャッチャーAを生かした守備固め、ですね」
プレーリー「ミート多用に意外性があるので、打撃面も期待できますな」
フルル「どこかでスタメンかもね」

一塁手 シロサイ

3 F D E D B C (サードC)

走塁G、粘り打ち、三振、守備職人、積極走塁、積極守備、体当たり

博士「守備要員にするには微妙ですが、守備要員なのです」

キリン「鈍足ね！」

助手「あんな鎧着ていたら当たり前なのです。打力は……使えないのです」

プレリー「サードの守備固めに入りそうでありますな」

フルル「パワー欲しいよね」

博士「以上なのです」

プレリー「他に話すことはないのですか？」

助手「そうですね……Bリーグの動向ぐらいですか？」

キリン「展開激しすぎね！」

プレリー「アツクアの加わったとある打線もそうですが、未確認が10点取って食らいついたのも悪くないですありません」

博士「なお投手陣。なぜこのメンバーでチームを組ませようとしたのか、これが分からないのです」

助手「三者三葉がメインキャラ12人くらいいますし、運動得意キャラもいるので、モブ抜いて全員ぶち込んでも文句は言われなのです」

フルル「担任の120球」

プレリー「スタミナEに投げさせる球数ではないでありますな」

博士「ということ、うまるちゃんの金剛もそうなる未来がみえるのです。今回はこ

こまでなのです」

フルル「予選は一年くらい先だからね」

第4話 しあいまえちほー

博士「どうも、アフリカオオコノハズクのはかせです」

助手「助手のワシミミズクです」

助手「今回はあの面々は呼ばないのですか？はかせ」

博士「冗長になるだけなのです。要件だけササッと話して終わらせるのですよ、じよしゅ」

助手「了解なのです」

博士「まずは状況の確認からなのです」

助手「手順が大事なのです」

博士「まずは何もフレがパワプロドリームカップに参加していることを忘れている人の方が多いと思うのです」

助手「知らなくても無理はないのです」

博士「というわけで本当に簡単に紹介するのです」

[https://dic.nicovideo.jp/t/a/パワプロドリーム
カッツ?from=video|search|top](https://dic.nicovideo.jp/t/a/パワプロドリーム
カッツ?from=video|search|top)

助手「……本当にこれだけでいいのですか？はかせ」

博士「言った通りサクサク進めたいのです」

助手「確かに本題に早く入りたいのです」

博士「とはいえここから少し話しますけどね」

助手「何をですか？」

博士「支援作品とは思えないほど投稿が遅い理由、なのですよ」

助手「単純に書けなかつただけではないのですか？」

博士「支援作品書くと順位が予想より落ちるので、ある意味呪いな気がしてたのです」

よ」

助手「ああ……」

博士「ガルパンは予選落ちだし艦これは敗者復活だし、4位予想のけもフレがどうなるかは想像しなくなかったのです」

助手「それがどうなるか話すのですよ」

博士「そうなのです」

2点差以上の勝利……1位通過

1点差の勝利……2位通過

引き分けか6点差以内の負け……敗者復活戦

7点差以上の負け……予選敗退

博士「まさかの……1位通過の希望が見えるとは思わなかったのです」

助手「一方このまま予選落ちもあり得るのです、はかせ」

助手「そこは大丈夫なのですか？」

博士「……敗者復活戦が基本路線になると考えるのです」

助手「それでも予想よりはマシなのです」

博士「猪狩から点を取れるかはともかく……」

助手「いくら低調気味のパワポケとはいえサーバルが打ち崩されない、それはないと」

博士「流石なのです。その通りなのですよ」

助手「中継ぎも安定とまではいってませんしね」

博士「ぶつちやけオーロックスは不安なのです」

助手「それでも勝つための方法は考えましようか」

・猪狩を早く降ろす

博士「とにかくこれに尽きるのです」

助手「打力もあるので一層その通りなのです」

博士「そして平山と武田を打ち崩すのです。そこならまだ可能性はあるのですよ」

・亀田、水原に打たせない

助手「猪狩とかパワプロとか外藤ならまだわかるのですが、亀田と水原ですか」

博士「とにかくパワプロの勝負師は発動させたくないのです。こちらは一発攻勢がメインとはいえ、向こうに同じことをされては勝ちづらいのですよ」

助手「ボブは外れそうですね。あとは猪狩進もですが」

・タイリクオオカミ先生、頼みます！

博士「まともなのがツチノコ除けばオオカミくらいなのですよ」

助手「オーロックスの飛翔は覚悟なのです。絶好調以外なら尚更なのです」

博士「ボスにも頼むことになりそうなのですが……」

・外野の長打警戒

博士「内野はザルでも外野はそこそこまとものを活かすのです」

助手「向こうの外野は両翼穴になりそうですし、機動力も使えば一番なのですよ」

博士「なんとか猪狩を攻略するですよ。威圧感をしっかり使うのです」

助手「ライオンとヘラジカがまた打てば勝てるはずなのです」

博士「こち亀に勝てた打線なのですから」

助手「地味にサーバルも1本打ちそうですし」

博士「最後に告知をして終わるのです」

来週分の小説『鼎』の完結を記念しまして、その投稿の翌日、来週の日曜日（8／16）22時より、ツイキャスにてラジオ放送を行います。恐らく1時間程度ただ皆さんの質問に答える形とはなりますが、小説やPDC関連などもお答えしようと考えておりますので、暇で狂った方のご来場をお待ちしております

助手「ツイキャスなるものを初めて使うのです」

博士「パワプロドリームカップ絡みも話すかもしれないので、暇なら来てくださいよ」

博士「というわけで終わりなのです。ゆっくり試合を待つですよ」

助手「我々は我慢ができるので」

第5話 しあいごちほー

博士「どうも、アフリカオオコノハズクのはかせです」

助手「助手のワシミミズクです」

プレーリー「オグロプレーリードッグであります！」

アミメキリン「アミメキリンよ！」

フルル「フルル」

助手「またこのメンツでやるですか？」

博士「多分最後になるしこれでいいのですよ、じよしゆ」

プ「最後つてどういうことありますか！」

ア「まだ大会は終わってないわ！あなた、サギね！」

博士「違うのです」

フ「でもさ」

フ「敗者復活戦勝つの、かな〜りキツいよね〜」

プ「……そうなのでありますか？」

博士「その通りなのです」

助手「まず敗者復活戦のルールを確認しておくのです」

- ・敗者復活戦に回るのは各リーグ3位の28チーム
- ・トーナメント戦で4チームが決勝トーナメントに出ることが出来る

キ「これがどうかなるんですか！」

博士「……正直……」

サーバル先発で勝てる気がしないのですよ」

フ「言っちゃったね」

助手「今まで敗者復活戦に出ることが決まってるのは以下の通りなのですよ」

ニセコイ

ラブライブ！

きんモザ&mp;ゆゆ式

中二境界○

銀の匙○

Angel Beats

ひだまりスケッチ○

Working!!

おそ松さん○

あたしんち○

鉄血のオルフェンズ

はじめの一步

NEW GAME

咲

艦隊これくしょん

はない

弱虫ペダル

GTO

けいおん！

プ「この時点でも結構多いでありますな」

博士「正直先発一番手が崩れて勝たせてくれるチームは殆どないのです。おそ松さんとあたしんちぐらいなのですよ」

助手「逆に二番手も良いところは、トーナメントのシードに入れたとしても当たったら厳しいのです。勝てそうなチームだけ〇付けてみたらこんなですよ……」

キ「待つて、まだよ……まだ諦めたらいけないわ！」

博士「そこはその通りなのです。それでは何もフレの強みと弱みを見るですよ」

強み

- ・ライオン、ヘラジカ砲
- ・切り込み隊長ジャガー
- ・予選計11本塁打
- ・2番手コツメカワウソ

博士「特にカワウソはあのこち亀打線相手によく投げてくれたのです」

助手「ライオン、ヘラジカについても、彼ら抜きでは間違いなく敗者復活戦には行けませんでしたしね」

フ「ジャガーは1番だよね」

弱み

- ・飛翔癖サーバル
- ・飛翔癖オーロックス
- ・下位打線
- ・プリンセス

・内野のザル度合い

博士「とにかくサーバルがシャレにならないのですよ」

助手「それに外野がマシになった一步と呼ばれるくらいの内野守備陣もです」

プ「とにかくスナネコ殿とヘラジカ殿が重かったでありますな」

フ「アルパカもだよね」

博士「それでそこから辺が揃って打撃でも貢献できないのが良くないのです」

キ「先生は……先生はどうなの……」

助手「まともな中継ぎなのですよ……この守備さえなければ本当に」

プ「オーロックス殿も防御率は悪くなくとも被弾が目立ったでありますな」

博士「さいきよーの補強はジャガーシヨートにして外野にイワビー入れることな
のです」

博士「要するにサーバルと守備の弱点が重すぎて、敗者復活は勝ち上がるのに賭けたらオツズがとんでもないことになりそうなのですよ」

フ「本命は艦これとラブライブ！とAngel Beatsとペダル、咲盛りだよね」

助手「3勝、上手くいって2勝するのはかなり厳しいのです。相手はかなり良くなければ……」

助手「それで今後はどうするつもりなのですか、博士」

博士「しばらくはなくなるのです。また敗者復活戦で勝ち上がりでもしたら復活するですよ」

プ「またえらい先でありますな……」

フ「ついこの前復活したばかりなのにね」

博士「しょうがないのです。このままだと内容が艦これと丸かぶりですよ」

キ「そうなたら……コラボね！」

博士「クロスオーバーとか誰特になるし需要もないのです」

プ「ということは向こうに投げるでありますか？」

助手「そういうこと……になるですね」

博士「まだ向こうの方が突破可能性高いと踏むのです。なのでそのまま突破してくれたら決勝トーナメントの話に広げますよ」

博士「ということなのでここまでなのです」

助手「ジャガーマンの方はまた気まぐれで復活するかもしれないですよ」